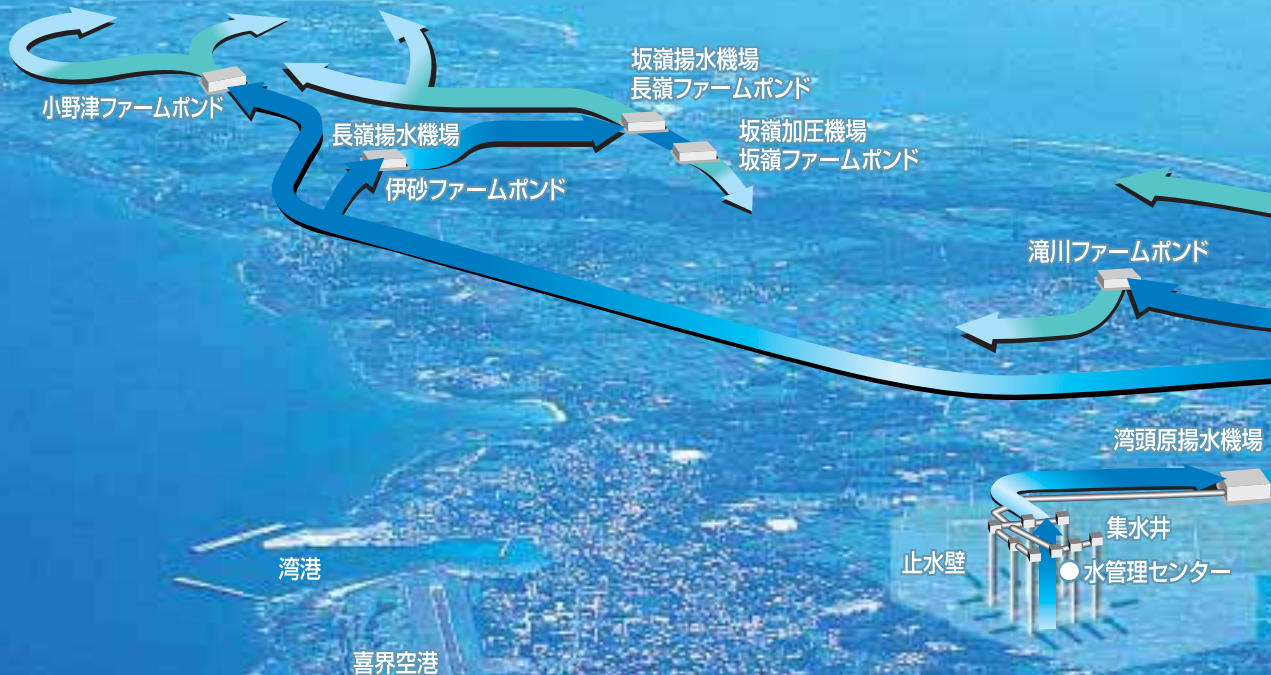


水は、喜界の



未 来 を の せ て ……。

喜界島は、県都鹿児島市から南南西に380km、奄美大島の東方約22kmの洋上にあり、面積56.9km²・周囲48.6kmの隆起珊瑚礁でできた小島である。島は、奄美十景に数えられる名勝「百之台」を最高位にして丘陵地帯が東側の海岸線に沿って走り、西側へかけてなだらかに傾斜している。概して起伏の少ない平坦な地形を成し、地質は水を通しやすい琉球石灰岩が20～40mの層を成し横たわる。大きな河川もなく、比較的降水量があるにもかかわらず保水力のないこの地層が、農業の発展をさまたげてきた。

国営喜界土地改良事業では、年間降水量2,000ミリを超える雨水を、流域面積5.8km²・総貯水量180万m³の地下ダムで貯留。水量調整用のファームポンド6ヶ所へ揚水し、総延長45kmのパイプラインによって、1,677haの農地へ送る。水は、農業立島・喜界島の基盤を支え、さらに島民の未来への希望をのせて珊瑚礁の大地を潤していく。

